

五九一一 (次行)

「天地水火」

五九一二

轉持なる者は、動の天地を爲す、
虚實なる者は、靜の天地を爲す、

五九一三

體は形を得て成る、

五九一四

氣は性を得て成る、

五九一五

氣物は體なり、

五九一六

會易は性なり、

五九一七 1復元

體は物を爲せば則ち天地なり、

五九一七 2復元

性は物を爲せば則ち水火なり、

五九一八

天地は能く運轉噲喻す、

五九一九 復元

天に氣象有り。氣は動き象は靜なり。氣は則ち一東一西なり、

五九二〇

西なる者は北を以て守る、

五九二一

東なる者は南を以て環る、

五九二二

象は則ち一聚一散なり、

五九二三

聚まる者は明にして熱なり、

五九二四

散ずる者は暗にして寒なり、

五九二五

氣は能く束すと雖も、而も束する者は象を主と爲す、

五九二六

象は能く西すと雖も、而も西する者は氣を主と爲す、

五九二七

若し西行を以て、象 之に随うと爲さば、則ち

(I 443a)

五九二八*
 五九二九
 五九三〇
 五九三一*
 五九三二
 五九三三
 五九三四
 五九三五
 五九三六
 五九三七
 五九三八*
 五九三九
 五九四〇
 五九四一
 五九四二
 五九四三
 五九四四
 五九四五
 五九四六
 五九四七
 五九四八

何を以てか日月星辰は相い南北せん、
 何を以てか日月星辰は相い南北せん、
 若し東行を以て、専ら象の行と爲さば、則ち
 恒星は何を以てか齋しく東西せん、然り而して
 日は轉じ影は移り、月は疾く星は遅きに由りて之を觀れば、則ち
 象中に緩急有り、
 西する者は守り定まりて疾く、
 東する者は守り環りて遅きに由りて之を觀れば、則ち
 氣中も亦た緩急有り、故に
 分ちて之を言え、則ち氣は西し象は東す、
 合して之を言え、則ち氣象は各おの東西す、蓋し
 西轉の一周は則ち攸遠、西する者の軸は、北を爲して立なり、
 北する者の輪は、西を爲して横なり、
 其の中線の一規は、即ち西中なり、
 東運の一周は則ち遠し、東する者の軸は、南を爲して立なり、
 南する者の輪は、東を爲して横なり、
 其の中線の一規は、即ち東中なり、
 故に北軸は常に守る、
 南軸は常に環る、
 環る者は其の行遅し、

五九四九 守る者は其の行疾し、且つ

五九五〇 西する者は氣を轉ず、

五九五一 東する者は象を運す、

五九五二 象は東旋に由りて運すと雖も。亦た各自に行を爲す。

五九五三 日なる者は。象の主なり。路は東中に縁る。故に

五九五四 參差の間。準を日行に於て取る。蓋し

五九五五 西する者を以て正と爲れば。則ち東する者は斜なり。

五九五六 猶お舟の將に行かんとして。而して正しく風に對す可からずして。勢を避けて斜に走るがごとし。

五九五七 蓋し天地の機は。一動一止なり。

五九五八 動は外に在れば則ち東西す、

五九五九 内に在れば則ち噤喩す、

五九六〇 東西と噤喩と同じく氣なり。

五九六一 天の轉を爲す、東明なれば則ち西は暗なり、

五九六二 西明なれば則ち東は暗なり、

* 五九六三 故に一線東行すれば則ち一線西行す、

五九六四 物は之に従いて一動一息す、

五九六五 地の持を爲す、南寒ければ則ち北は熱す、

五九六六 北寒ければ則ち南は熱す、

* 五九六七 故に一邊の氣噤すれば則ち一邊の氣喩す、

(PB 405)

五九六八

物は之これにしたが従いちちよういちしやういて一長一消ゆえす、故ゆえに

* 五九六八一 (復元)

地氣ちぎなる者はそ燥そうなり、此これにしたが従のぼいて升のぼる、

* 五九六八二 (復元)

天質てんしつなる者はすい水すいなり、此これにしたが従ふいて降ふる、故ゆえに

五九六九

日影にちえいは東西とうせいの中にあ在ありて東西とうせいす、

五九七〇

水燥すいそうは上下じやうげの中にあ在ありて上下じやうげす、

五九七一

上升じやうしやうげ下降じやうげ、上面じやうめん始はじめて轉てんず、

五九七二

東運とうん西轉せいてん、下面かめん始はじめて持じす、

五九七三

天てんの偏覆へんぷくする無なきは、西にしするを以もつてなり、

五九七四

日にちの偏照へんしやうする無なきは、東ひがしするを以もつてなり、故ゆえに

五九七五

氣きに東西とうせいの轉てん有り、

五九七六

象しやうに順逆じゆんぎやくの行こう有り、

五九七七

西轉せいてんは日にちをして逆行ぎやくこうして以もつて年ねんを成なさしむ、

五九七八

東轉とうてんは日にちをして順行じゆんこうして以もつて歳さいを成なさしむ、是こゝに於おいて

五九七九

氣きは東西南北とうせいなんぼくすれば、則すなわち

五九八〇

象しやうは明暗寒熱めいあんかんねつす、

五九八一

明暗めいあんは東西とうせいを得えて晝夜ちやうやを成なす、

五九八二

寒熱かんねつは南北なんぼくを得えて冬夏とうかを成なす、

五九八三

華液かえきは能よく鬱發凝融うつはつきやうゆうす、

五九八四

天地てんちなる者はもの體物たいぶつ、處しよを得えて居おる、

(1 443b)

五九八五
 五九八六
 五九八七
 五九八八
 五九八九
 五九九〇
 五九九一
 五九九二
 五九九三
 五九九四
 五九九五

華液なる者は性物、天地を得て居る、是を以て
 天地は運轉噓喻有り、
 華液は鬱發凝融有り、其の事は同じ。
 鬱易は發して火を爲す、
 凝會は融けて水を爲す、
 天地なる者は長持の物、解結聚散は緯に於て成る、
 水火なる者は相換の物、解結聚散は經に於て成る、
 鬱する者は止る、
 發する者は動く、
 凝する者は收む、
 融する者は發す、
 而して

(PB 406)